

2014年度 全国自立援助ホーム協議会事業報告

重点課題

- ①ホーム数100ヶ所を超える全国協議会の組織作りを含めたあり方について再検討を行っていく。
 - 協議会の中にあり方検討委員会を立ち上げ議論を開始した。
 - 広報委員会を立ち上げ、ホームページの改善と協議会パンフレット作成の検討、協議会便りの発行を行った。
 - 運営指針を作成した。
- ②自立援助ホームの機能・体制強化のため、子どもの主体性を中心にとらえた中での職員配置や労働条件などの改善のための活動を行っていく。
 - 制度政策委員会でまとめた要望を厚生労働省へ提出した。
- ③自立援助ホームにおける支援の質を高めていくことをめざす。
 - 研修委員会による各種研修の企画と実施を行った。

重点事項

- ①各近隣地域のホーム同士がいかに情報を共有し、日々の支援に活かしていけるかを検討する。また、先駆的に自主的に活動をしている地域の内容を共有していけるような仕組みを計画する。
 - 九州、中四国、関東、北海道地区などにおいて自主的に連絡協議会や集まりを実施されており情報共有は進んできている。
 - ブロック体制？についての議論検討が行われた。
- ②国に対しての要望は当然協議会として行っていくが、各自治体に対してもそれぞれの地域やホーム単位で要望・折衝していける力をつけていけるための方策を検討していく。
 - 各ホームからの相談・質問等を協議会や事務局が受けアドバイスや助言を行ってきた。
- ③現場スタッフの苦悩から現れる、他の研修にはない自立援助ホーム独自の充実した研修を開催する。
 - 研修委員会を中心に各種研修（ホーム長、全国大会、女性スタッフ、新規ホーム、スタッフ）を実施した。
- ④あり方検討委員会の議論を深め、これからの“自立援助ホーム”のあり方について検討を進める。
 - あり方検討会を立ち上げたが、厚生労働省の要請により運営指針作成が急務となり、作成委員会のワーキンググループに参加し、運営指針を作成した。したがって、本来すべきだった議論が行えなかったもので、次年度へ引き継ぎたい。

2014年度 事務局事業報告

事務局長 恒松大輔（あすなろ荘）

事務局次長 小久保志津子（カリヨンタやけ荘）

事務局 田村崇（鳥取フレンド）、久野亨（まつぼっくり）、大屋桂子（おうぎ寮）

1. 役割分担

○事務局長 <恒松(あすなろ荘)>

- ・会員ホームの相談対応
- ・協議会の会費の確認の連絡等
- ・各種振り込み

○事務局次長 <小久保(カリヨンタやけ荘)>

- ・会計責任者
- ・入会退会関係（入会申し込み書の送付・電話での対応）

- ・運営役員会の交通費の支払い
 - ・協議会の会費の徴収・祝い金振込み
- 庶務 <大屋（おうぎ寮）>
- ・各種書類（通知文・ハンドブックなど）の配送

- 庶務 <田村（鳥取スマイル）>
- ・メールにて各種連絡
 - ・運営役員会の議事録
 - ・自然災害などの被害届
 - ・各委員会の動き・HP・たよりの確認
 - ・会員のメールアドレスの管理

- 庶務 <久野（まつぼっくり）>
- ・運営役員会の開催（日程調整・会議室の確保・参加者に通知）
 - ・会計ソフトの管理
 - ・決算書・予算書の作成
 - ・事務局の事業報告・事業計画の作成
 - ・会員データ・会員施設一覧の作成

2. 運営役員会の開催

- | | | | | |
|-----|-------|--------|-------------|--|
| 第1回 | 2014年 | 4月21日 | 11:00~12:00 | アルカディア市ヶ谷
ホーム長研修会・総会 最終確認 |
| 第2回 | | 6月27日 | 13:00~17:00 | 飯田橋セントラルプラザ
ホーム長研修会・総会総括
施設損害保険について |
| 第3回 | | 9月1日 | 13:00~17:00 | 飯田橋セントラルプラザ
全国大会について |
| 第4回 | | 11月28日 | 11:00~12:00 | 高知会館
全国大会の最終確認 |
| 第5回 | 2015年 | 1月29日 | 14:00~17:30 | 飯田橋セントラルプラザ
全国大会の総括
自立援助ホーム運営指針の報告 |
| 第6回 | | 3月5日 | 13:00~18:00 | 飯田橋セントラルプラザ
次年度ホーム長研修会について・総会について
各委員会の事業報告（案）の確認・事業計画（案）・
予算（案）についての確認 |

※開催時期に間に合わない可能性のある議案については、そのつど運営役員にメール等でお知らせし、確認を取る

3. 事業報告

- ・2014年 4月28日 ホーム長研修会（アルカディア市ヶ谷）
- ・ 4月29日 総会（アルカディア市ヶ谷）
- ・ 6月27日 事務局会議（飯田橋セントラルプラザ）
- ・ 11月28日~29日 全国自立援助ホーム協議会高知大会（高知会館）

2014年度 制度政策委員会事業報告

制度政策委員長 松田正幸（デンマーク牧場こどもの家）

制度政策委員 釜田一（ようせい）、大屋桂子（おうぎ寮）

近年、自立援助ホームは、従来の補助金制度から児童保護措置費への移行（平成 21 年度）がなされ、事務費の実人員払いから定員払が実現（平成 23 年度）し、運営面での一定の安定が図られてきた。そして、賃貸家屋補助や収入のない児童の医療費補助や第三者評価受審に係る経費の補助、特別育成費の支給の改善（平成 24 年度）等々、全国協議会が要求してきたものが少しずつではあるが順次実現されてきた経過がある。

さらに来年度から、「被虐待児童等への支援充実」の観点から次の 2 点の充実がなされることになった。

1. 心理担当職員を配置する。
2. 就職支度費の支弁対象とする。

現在の全国協議会は、歴史や理念が異なり、運営形態も違うホームが集っているが、社会的養護の一角を担う施設として、制度の充実は同時に一層の運営責任が求められていることも当然のこととして自覚したい。

今後も困難を抱えて入居してくる子どもたちのために、社会的養護の「最後の砦」として、そして同時に子どもたちが社会に向かって歩み始めるスタート地点として、私たちが責任と気概を持ち続けるために今後ともホームの質・量ともに発展させたい。

2014年度 研修委員会事業報告

研修委員長 高橋一正（ふくろうの家）

研修委員 羽田浩之（ベアーズホーム）、石田千織（星の家）、平井千晶（慈泉寮）

●ホーム長研修会 2014年4月21日（於：アルカディア市ヶ谷） 参加者 88 名

行政説明 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課
家庭福祉課長 小野太一氏

研修会 シンポジウム『自立援助ホームはどこに向かっていくべきなのか』
～新規ホームの増加とニーズの多様化を直視して～

シンポジスト 星 俊彦氏（星の家）
屋代 通子氏（シーズ南平岸）
田村 崇氏（鳥取スマイル）

新規ホーム紹介

●女性スタッフ研修会 2014年7月14日～15日（於：札幌市） 参加者 51 名

講義 『正しい性知識について』

講師：カレスサッポロ時計台記念病院女性総合診療センター

センター長 藤井 美穂氏

カレスサッポロ時計台クリニック 助産師 村田 美智子氏

グループ討論

ホーム見学（札幌市内 3 ヶ所）

- 新規ホーム研修会 2015年1月28日～29日（於：アルカディア市ヶ谷） 参加者19名
 講義 「ホームの運営・安定と関係機関との連携」
 （児相・児童養護施設・自立支援施設・家庭裁判所等）
 講師 ふくろうの家 高橋一正氏
 「子どもの権利擁護」（スタッフの権利「チームワーク」と事例を入れて）
 講師 鳥取スマイル 田村 崇氏
 「理念と歴史」（自立援助ホームの制度・運営について）
 講師 慈泉寮 平井誠敏氏
 「運営の中での生活について」（規則など含め一種との違い）
 講師 あすなる荘 恒松大輔氏
- スタッフ研修会 2015年2月23日～24日（於：アルカディア市ヶ谷） 参加者24名
 講義 「自立援助ホームに求められるチームワーク」
 ～法のはざままで苦しんだ子どもたちを援助していく中で～
 講師 東京国際大学人間社会学部准教授 村井 美紀氏
 シンポジウム「自立援助ホームが大切にしたいもの」～ニーズの多様化にどう対応するのか～
 丁寧な生活支援 マナの家 目黒真理氏
 運営の安定化は何かが必要か ミカエラホーム 鈴木智子氏
 職員組織（チームワーク）について
 カリヨンタやけ荘 小久保志津子氏
- 研修委員会 2014年12月12日（東京都）

2014年度 調査研究委員会事業報告

調査研究委員長 前川（湘南つばさの家）

調査研究委員 屋代（シーズ南平岸）、川口（わだちの家）、古賀（かんらん舎）

今年度の調査研究委員会も委員長が機能しなかったことから、活動が活性化出来なかった。厚生労働省へ提出する「ホーム人数調査」は従来通り行ったが、全国自立援助ホーム実態調査は実行できなかった。今後は調査研究委員会の活動が活性化される為の体制を、根本的に検討していかなければならなかったが、現状維持のままであった。

①ホーム人数調査

毎年、国から要請がある調査であり、利用者の在籍数、年齢、性別やスタッフの構成、加えて暫定定員になったホーム数も調査した。

調査日：平成26年4月23日～4月28日

調査ホーム数：104ホーム

回答ホーム数：104ホーム（1ホーム休止中）

結果：5月の厚労省国家予算要望書陳情の際に提出。暫定定員を余儀なくされる制度の課題や、ホームの現状についても説明をした。

※暫定定員のホームは104ホームのうち32ホームであった。

②あり方検討委員会、簡易実態調査

自立援助ホームの将来的な機能を模索するため、現在の全国ホームの入居者の背景や傾向、ホームの体制など、時代のニーズに即した自立援助ホームの機能を調査する予定であったが、下記のワーキ

ンググループ発足に伴い、見送りとなる。

③自立援助ホームワーキンググループ

厚生労働省の自立援助ホーム運営指針策定にあたり、調査研究委員長として加入。

④その他

全国自立援助ホーム実態調査、ハンドブック第三弾は具体的に進められなかった。

2014年度 広報委員会事業報告

広報委員長 新井秀親（夢舞台）

広報委員 松木良介（経堂憩いの家）、大橋達也（吾が家）・野原知子（マルコの家）

①広報委員会定期開催

全国自立援助ホーム協議会広報活動推進のため、広報委員会を年3～4回開催する予定でありましたが、ホームページのリニューアルおよび自立援助ホームの全国版パンフレットの作成に時間がかかったため、下記の通り年6回広報委員会を開催することになりました。

他の委員会と連携をとりながら、全国会員の要望を丁寧に拾い上げるシステム作りに関しては、来年度の課題として持ち越したい。

第一回広報委員会	2014年	5月28日	ベアーズホーム
第二回広報委員会	2014年	7月22日	ベアーズホーム
第三回広報委員会	2014年	8月27日	ベアーズホーム
第四回広報委員会	2014年	10月21日	ベアーズホーム
第五回広報委員会	2014年	12月10日	ベアーズホーム
第六回広報委員会	2015年	2月4日	ベアーズホーム

②『協議会便り』

全国自立援助ホーム協議会の広報誌として、『協議会便り』を年2回発行しました。

一回目は、全国大会前の11月に発行。内容については、春のホーム長研修会および総会、女性スタッフ研修会、みずきの家と鳥取スマイルのホーム長の紹介。また、昨年度全国大会開催県である高知県の「南風」による高知県の見どころ紹介を掲載しました。また、長年の課題であったホームページのリニューアル作成についてもお知らせしました。

二回目は、年度末の3月に発行。秋の全国大会に合わせて「中堅スタッフによる座談会」の企画は実施できませんでしたので、内容については、秋の全国大会、運営指針、新たにブロックの実践と取り組みを紹介させていただきました。

③HPの作成

長年の課題でありましたホームページについては、広報委員だけでは最新のホームページを作成したうえで、維持・管理をしていくには限界があると判断したことから、ホームページ専門業者に協力を得て、リニューアル作成にこぎつけました。

このホームページは、CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）を利用したことで、複数の担当者がより簡単にワードやエクセルの作成要領で更新できるシステムを採用したことになります。事務局または各委員会の担当者がパスワードを管理し、更新作業が簡単にできるようになりました。また、『お問い合わせ』フォームから、直接事務局にアクセスできるようにし、事務局へのメール作成ページが表示されるようにしました。

④全国版パンフレットの作成

自立援助ホームの事業に対する理解を一般に広めるため、コンパクトでわかりやすい自立援助ホー

ムの全国版パンフレットを作成した。内容は、自立援助ホームハンドブックさぽおとガイドを参考にしたうえで、10,000部印刷。2015年度の春の総会にてご報告、および、各ホームに配布を行いたい。